

◎IFHA リリース(和訳)

競走馬理化学研究所が IFHA の 6 番目のリファレンスラボラトリーに正式指定される

2022 年 7 月 25 日

本日、国際競馬統括機関連盟 (IFHA) は、リファレンスラボラトリー指定委員会 (RLAC) による承認を経て、競走馬理化学研究所 (競理研) を IFHA のリファレンスラボラトリーとして正式に指定したことをお知らせします。競理研は、世界的な COVID-19 パンデミックによる渡航制限を受け、RLAC の監督下で行われた申請とリモート審査を経て、2021 年 7 月に IFHA のリファレンスラボラトリーとして暫定的な指定を受けていました。その後、2022 年 6 月に行われた現地審査を経て、競理研が IFHA の 6 番目のリファレンスラボラトリーとして正式に指定されることが決定しました。

RLAC のアンドリュー・ハーディング議長は「IFHA のリファレンスラボラトリーとして指定を受けるための競理研の努力、勤勉さ、忍耐力を称賛します。COVID-19 の発生前から準備を進め、パンデミックによって追加されることとなったプロセスや課題にも着実に対応した点を特に称賛します。私たちは、競理研が IFHA の 6 番目のリファレンスラボラトリーとして正式に指定されたことを祝福したいと思います」と述べました。

競理研の安齊了理事長は「この場をお借りして、IFHA の RLAC メンバーの皆様には、IFHA のリファレンスラボラトリー申請において、長らくご支援いただいたことに感謝申し上げます。競理研が IFHA のリファレンスラボラトリーとして指定されたことには、スタッフのチームワークと高い専門性に対して十分な評価をいただけたこと、さらには、日本中央競馬会 (JRA) からの多大なサポートがあったことによるものと考えています。今後は IFHA の 6 番目のリファレンスラボラトリーとして、競馬の発展に一層貢献するとともに、IFHA ならびに他のリファレンスラボラトリーと密接な連携を図っていきたいと思います」と述べました。

1965 年に設立された競理研は、国際的に認定された馬の薬物検査機関であり、競馬や馬術競技を対象に、主として尿、血液、毛などの馬の生体材料を用いた専門的な検査を実施しています。また、競理研は日本で唯一の馬の薬物検査機関であり、その主な役割として、すべてのステークスホルダーにとって公平な環境を提供する公正確保に取り組んでいます。

競理研は、Racing Analytical Services Limited (オーストラリア)、Laboratoire Des Courses Hippiques (フランス)、LGC Group, Sport & Specialised Analytical Services (英国)、Hong Kong Jockey Club Racing Laboratory (香港)、Kenneth L. Maddy Equine Analytical Chemistry Laboratory, University of California at Davis (米国) とともに、IFHA のリファレンスラボラトリーとして正式に指定されました。IFHA のリファレンスラボラトリーは、その申請プロセスにおいて、事業規模、資金調達、研究活動、主要ドーピング剤を含む禁止物質の使用を検出する能力などの基準を満たす必要があります。

2022 年 7 月に更新された IFHA の リファレンスラボラトリー ホワイトマニュアル (および別添) は <https://ifhaonline.org/default.asp?section=IABRW&area=13> でご覧いただけます。